

背景 耕地防風林は、耕地と林地が隣接するため森林施業を実施する際、耕地所有者との間で林地へのアクセス方法をはじめとする制限や制約が多い。そのため、防風林の手入れができず、立枯れや倒木も散見されることから、保安林機能の維持・向上のための整備を実施する方策が必要である。

一方、防風林の林縁部では、日陰による日照障害や、耕地上空へ張り出した枝による大型農業機械の走行障害、ICT機能を有する機械の通信障害等が発生し、抜本的な解消を求める要望が寄せられている。

このため、耕地防風林の整備を行う手段の確立と併せて、耕地へ及ぼす悪影響を緩和する方策として、林縁部に防風林の管理用道路を整備する試行事業を実施した。

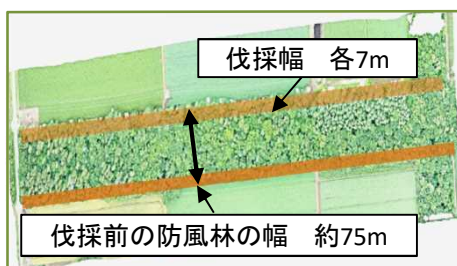
1 防風林管理用道路の整備

整備方針を策定するため、防風林の現況調査と併せて、地域関係者との意見交換会など検討を経て、防風林の林縁部に管理用道路を整備する方針とし、R2～3年度にかけて試行的な事業を実施した。

R3.2-3月 試行整備の候補地を設定し、林縁部両側を7m幅で伐採
6-9月 防風林管理用道路を整備(除根、路面整正、路盤材敷均し)



意見交換会



Before



After

試行的な施設整備結果の評価

- ・林縁部の伐採により生じた緩衝帯により、日陰の解消だけでなく、耕地への雪の吹きだまりも解消されるなど、耕地への悪影響は軽減された。
- ・伐採後も防風林機能は保持されていた。

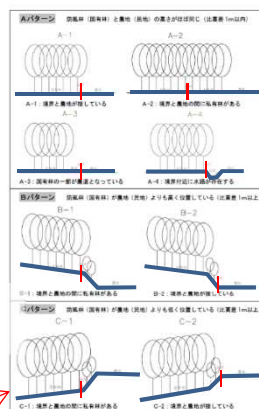
2 今後の整備計画について(優先度の策定)

防風林を計画的に整備するための指標を定めるため、防風林をブロック分けし、それぞれについて林帯の方位、耕地と隣接する割合、地形パターンについて調査したうえで、以下の条件により優先度を3段階に評価した。

- ・伐採による日陰解消効果(方位)
 - ・国有林と耕地が隣接する割合
 - ・施業の難度(地形)
- ➡ 優先度を評価



地形パターンと耕地との関係性



今後の展開と課題

- ・林縁部に整備した防風林管理用道路は、林地への車両のアクセスを可能にするとともに、隣接農地への悪影響を軽減する点において効果的であったため、試行事業の結果を元に今後も取組を継続する考えである。
- ・全ての防風林の整備には時間がかかる見込みだが(管内防風林の面積1,185ha、林地延長約146km)、地域農業関係者からの防風林整備を求める要望が強いことから、整備の必要性や効果、整備の難度から定めた優先度に基づき、関係者との調整を図りながら計画的に整備を行う必要がある。
- ・防風林の現況を把握し、健全な防風林を維持するための整備を併せて実施していくことが必要である。